

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年 国語 84人 社会 84人 数学 84人

理科 84人 英語 84人

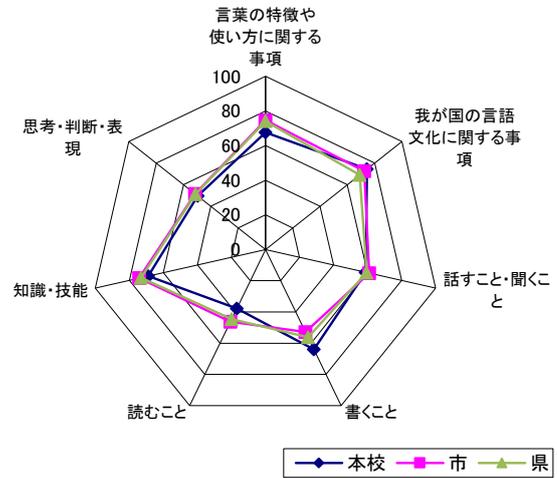
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	67.6	74.7	74.1
	我が国の言語文化に関する事項	74.4	72.5	69.1
	話すこと・聞くこと	58.9	60.9	59.5
	書くこと	64.0	52.8	56.2
	読むこと	37.8	46.2	44.5
観点	知識・技能	68.9	74.2	73.1
	思考・判断・表現	49.6	51.5	51.2



★指導の工夫と改善

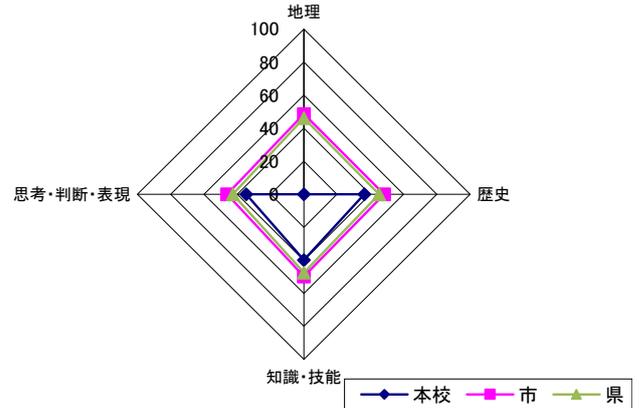
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	●この項目では市の正答率を7.1ポイント、県の正答率を6.5ポイント下回っている。	・定期的に漢字や文法の確認テストを取り入れ、丁寧に指導していく。 ・文法については、第1学年の学習内容を絡めて復習する時間を設けて、充実を図る。また、他学年でも復習をする。
我が国の言語文化に関する事項	○この項目では市の正答率を1.9ポイント、県の正答率を5.3ポイント上回っている。	・古典の授業の中で、歴史的仮名遣いや古典特有の表現について重点的に指導し、今後もさらなる定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	●この項目では市の正答率を2.0ポイント、県の正答率を0.6ポイント下回っている。	・話の中で、自分の考えの根拠となる内容を捉え、構成に生かし、工夫させる授業内容を取り入れる。 ・聞き取りテストを実施する前に、プレテストを実施し、前述の内容を確認するようにする。 ・メモの取り方についても指導し、効果的なメモを取ることができるようにする。
書くこと	○この項目では市の正答率を11.2ポイント、県の正答率を7.8ポイント上回っている。	・昨年度からの取り組みである、以下のことについて、今後も指導していく。 ①条件 ②答え方(論の筋・構成の工夫) ③自分の考えの書き方 ④記述の仕方(論理的な書き方)
読むこと	●この項目では市の正答率を8.4ポイント、県の正答率を6.7ポイント下回っている。	・文章の読み取りについては、段落同士の関係、接続語の役割、登場人物の把握や心情の表現方法など、多岐にわたる読み取りや注意点を踏まえ、指導していく。 ・また、文章の中から自分の考えの根拠を見つけ出す活動を増やし、文章題に慣れていけるようにしていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	39.2	48.6	46.2
	歴史	36.4	48.3	45.3
観点	知識・技能	39.8	49.8	47.5
	思考・判断・表現	34.6	46.1	42.7



★指導の工夫と改善

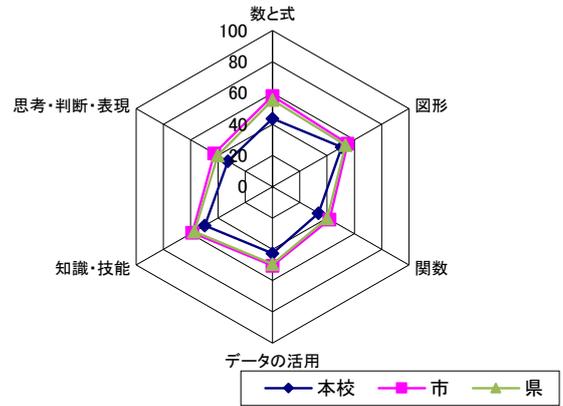
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を9.4ポイント下回っている。県の正答率を7.0ポイント下回っている。 ●基本的な知識の習得が不十分な生徒が多い。 ●資料の読み取りに関して、資料が表現していることを読み取ったり、複数の資料を結び付けて考えたりする能力が市や県全体から比べてかなり低い。 ○国土面積と領海に関する思考能力は県・市よりもやや高い。 ○日本の位置に関する知識は県よりも上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識の修得と地理用語の理解させる。 ・知識を応用しながら、グラフや表から国や地域の特徴を読み取る力を育成する。
歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を11.9ポイント下回っている。県の正答率を8.9ポイント下回っている。 ●古代文明が起こった場所や特徴について世界地図と結び付ける力が県・市に比べてかなり低い。 ●歴史的な出来事を資料から判断し、学習した知識と結び付ける力が県・市と比べて低い。 ○室町時代の琉球王国の貿易に関してはよく理解している。 ○平安から鎌倉にかけての武士についての歴史を順序正しく並べることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界史に関しては、地図を活用して時代と地域を明確にしていく学習を進める。 ・問題集を解くのではなく、学習したことを時間的に整理し、地図と結び付ける学習を推進する。 ・時代と資料を結び付け、時代像を確立させる授業を推進する。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	43.7	58.2	55.5
	図形	50.7	55.1	53.5
	関数	33.8	41.9	40.2
	データの活用	42.6	50.5	49.4
観点	知識・技能	49.6	58.8	57.3
	思考・判断・表現	32.7	42.7	40.3



★指導の工夫と改善

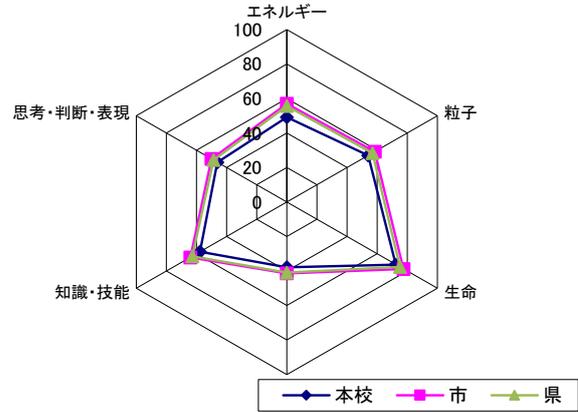
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●この領域において、市の正答率より14.5ポイント、県の正答率より11.8ポイント下回っている。 ●特に「1次式の減法」に関する問題において正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の優先順位等、正負の数の四則に関することや等式の性質について丁寧に指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○「図形の移動」に関する問題では、市および県の正答率を上回っている。 ●この領域において、市の正答率より4.4ポイント、県の正答率より2.8ポイント下回っている。 ●特に、「円柱の側面積」に関する問題において正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を操作しながら、視覚的に理解を深められるよう指導を工夫する。 ・見取図や展開図をかく時間を十分にとり、イメージする力を高めるとともに、図と「長さ・面積・体積」を表す式とを結びつける指導を丁寧に行う。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ○変域のある$y=2x$のグラフを正しく書くことができていた生徒は75.0ポイントであった。 ●この領域において、市の正答率より8.1ポイント、県の正答率より6.4ポイント下回っている。 ●特に「与えられたグラフが何を表しているか」を問う問題において正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変域に関する理解度を高められるよう、日常に関わる題材や時間、量に限りのある場面を取り入れて式を求めたりグラフをかいたりする指導を行う。 ・比例、反比例のグラフの特徴をおさえるとともに、複数のグラフを比較したりどの部分から何を読み取ることができるのかを十分考えたりする指導を丁寧に行う。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ○「ヒストグラムから度数の合計を答える」に関する問題において、県の正答率をわずかに上回っている。 ●この領域において、市の正答率より7.9ポイント、県の正答率より6.8ポイント下回っている。 ●特に「累積度数」に関する問題において正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データに関する用語やその意味について正しく理解できるよう指導する。 ・度数分布表とヒストグラムの関連やヒストグラムから様々な値を求める指導を丁寧に行う。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	49.2	57.0	55.7
	粒子	54.0	58.6	56.9
	生命	72.4	77.5	75.2
	地球	37.8	41.4	40.9
観点	知識・技能	57.7	64.1	62.8
	思考・判断・表現	46.2	50.1	48.7



★指導の工夫と改善

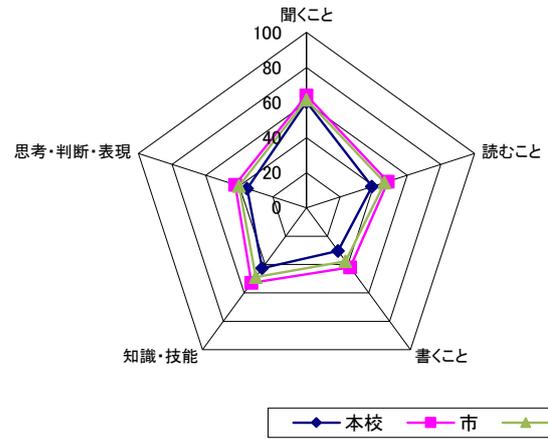
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を7.8ポイント下回っている。 ○鏡に映る像が見える範囲について考える問題では、光の道筋をもとに見える範囲を推測することができた生徒が多く、市の正答率を2.4ポイント上回った。 ●8割以上の生徒が、力の大きさとばねののびの関係についてフックの法則が成り立つことを理解しているが、ばねを2つつなげた場合にそれぞれのばねののびがどのようになるのか理解できていない生徒が多かった。既習の知識を活用して発展的に考えることに課題がある。 ●音の速さと所要時間から音源までの距離を求める問題では、およそ半数の生徒が間違えており、市の正答率を12.8ポイント下回った。計算問題に苦手意識をもつ生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的知識を活用して発展的な内容を考えさせる場面を、普段の授業の中に積極的に取り入れていく必要がある。物事を多角的に捉えながら、課題を解決するためにどのような方法でアプローチしていったら良いかを考える経験を積ませたい。 ・速さや密度、質量パーセント濃度など、理科では公式を使って解く問題が数多くある。公式を覚えるだけでなく、計算することに慣れ、使いこなせるようになるためには、たくさん問題を解くことが大切である。授業において公式を扱った際には、宿題等を設けて、理解の定着を図りたい。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を4.6ポイント下回っている。 ○9割以上の生徒が、化学実験を行う際の危険な行動について理解している。 ●塩化ナトリウムは硝酸カリウムに比べて温度による溶解度の変化が小さいため再結晶しにくいことを理解しているものの、その仕組みを文章で答える問題の正答率は27.4%と低かった。頭の中でイメージしていることを文章で正しく表現することが苦手な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のふり返りを文章で書かせるようにするなど、文章で表現する場面を数多く設定する。生徒の書いた文章にしっかり目を通し、表現に不備がある際には丁寧に添削指導をしていく。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を5.1ポイント下回っている。 ○食べものによる動物の分類についての理解を問う問題では正答率が100%であり、市の正答率を5.9ポイント上回っていた。 ●ライオンとシマウマの犬歯を正しく選ぶことが出来る生徒は8割以上いるが、ライオンの犬歯が発達している理由を正しく述べることができない生徒が4割程度いた。 ●植物の葉や根のようすをまとめた表を見ながら、その規則性を導き出す問題での正答率は56%であり、市の正答率を12.2ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目に見える特徴に気付かせるだけでなく、なぜそうなっているのか理由を考えさせることが大切である。授業において、理由や根拠について深く考える場面を多く設定していきたい。 ・たくさんのデータを分析しながら、その規則性を見いだしたり、その規則性をもとに新たな生物について正しく分類したりする活動を積極的に取り入れていく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を3.6ポイント下回っている。 ○地震のゆれが届くまでの時間と震源からの距離の関係を問う問題では、正答率が76.2%であり、市の正答率を9.8ポイント上回っている。 ●離れた場所の地層の対比と広がりについて考える問題の正答率は、他の領域に比べて非常に低かった。 ●地震に関する領域では、表やグラフなどの測定データをもとに初期微動継続時間を導き出す問題の正答率が36.9%と低く、市の平均を6.7ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この領域では、たくさんの情報を自分なりに整理して、その規則性を導き出していくことが大切である。授業においては、他の領域より多くの時間をかけ、与えられたデータを自分で活用しやすいように整理するなど、情報の整理の仕方を身に付けさせながら、自分たちで考え気付かせる活動を大切にしたい。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.3	64.0	61.6
	読むこと	39.0	48.4	46.6
	書くこと	30.4	42.0	37.8
観点	知識・技能	42.6	52.9	48.9
	思考・判断・表現	35.3	42.4	40.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を3.7ポイント下回っている。 ○聞くことの問題では、全体的に正答率が高い。特に、イラストの状況を適切に表している英文を聞き取る問題では、ほとんどの生徒が正答できている。 ●疑問詞を使った問題では正答率が火年度に比べて落ちている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の登場人物のいる対話文を聞く際には、概要や話の流れの理解をもとに、次にどのような会話が続くか予想しながら聞くように指導する。 ・英文を聞いて、適切な返答ができるように、口語的な語彙や言い回しのボキャブラリーを充実させる授業を行う。 ・疑問詞を扱う活動を多く取り入れる。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を9.4ポイント下回っている。 ○英文から必要な情報を読み取り、適切なタイトルを選ぶ問題では、半数の生徒が正答できている。 ●英語の概要を理解し、自分の状況を判断して必要な情報を読み取る問題では、市の正答率よりも13ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英文を読んで概要を理解する力を養うため、各段落の要点や、話の移り変わりを捉えながら英文を読む授業を展開する。 ・設問の内容を正確に理解し、答えるべき内容を素早く英文から読み取る力が定着するような授業を行う。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ●市の正答率を11.6ポイント下回っている。 ○語法の知識を用いて空欄を埋める問題では、全ての問題において、半数以上の生徒が正答できている。 ●語を適切な形に変えて英文を書く問題では、市の正答率を約30ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な文法知識をもとに、対話の流れに合う英文を書けるように、普段の英作文から、文脈や場面の設定などを付け加えてライティングの指導をする。 ・つながりのあるまとまった英文を書けるように、接続詞の重要性と使い方を理解させる授業を行う。

宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している」という問いに対しての肯定的割合は、市全体より8.7ポイント、県全体より11ポイント上回っている。自主学習やテスト勉強は計画を立てて取り組ませているので、今後も継続させていきたい。

○「家で、学校の授業の復習をしている」の肯定的割合は、市全体より4.9ポイント、県全体より3.2ポイント上回っている。自主学習ノートを毎日提出させてチェックをしていて、復習を毎日するよう指導しているので、今後も持続させたい。

○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的割合は、市全体より15ポイント、県全体よりも19.1ポイント上回っている。計画を立てて学習する生徒が多いため、自分で学習もする生徒も多く、今後も頑張らせていきたい。

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定的割合は、市の平均を4.3ポイント上回っている。また、「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」という問いに対しても肯定的割合が市の平均を4.3ポイント上回っている。主体的・対話的で深い学びの実現のため、各教科で話し合い活動に取り組んできた結果である。今後とも継続して取り組み、更に深めていきたい。

○「授業を集中して受けている」の肯定的割合は95.2%で、市全体より4.9ポイント、県全体より5.2ポイント上回っている。どの教科にも落ちて取り組んでいる様子が見える。今後も持続させていきたい。

●1日当たりのスマホを使用しているゲームやメールなどの使用時間が長い傾向があり、自主学習は行っているが時間は少ないと思われる。今後は自主学習の質を高めるように支援していきたい。

●「難しい問題に出会うと、やる気が出る。」の肯定的割合が低い。「自分一人で課題を解決しようとしている」肯定的割合も低い。簡単な問題は自分でできるが難しい問題に取り組めない傾向がある。少しずつ課題の難易度を上げていき、達成感を味わわせながら、授業のまとめとして、最後に応用問題を行うようにしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画等の活用）	学習課題と「見通し」から授業の目標を明示し、課題の設定や発問の仕方を工夫して課題解決への意欲を持たせる。	「授業の中で、目標が示されている」「授業の最後に、振り返り活動をよく行っている」「授業で扱うノートには、学習の目標とまとめを書いている」の設問で市平均、県平均を上回っていた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭学習の時間に関する肯定的割合は市の平均を上回ったが、内容に関する肯定的割合は市の平均を下回り、学力に関する市平均を下回った。	家庭学習の質の向上を目指した指導の工夫	定期的に教科ごとに課題を出したり、自学ノートの内容について指導をしたり、家庭学習を充実させ、基礎・基本を定着させていく。